

## 令和2年度 道徳授業地区講座 授業実践報告

10/15(木)の6校時に例年のような授業公開は叶いませんでしたが、道徳授業地区講座として道徳の授業を行いました。各学年、授業検討を行い授業を実施し、授業者以外の教員は授業を参観し、授業後には教員間で意見交換をしました。各学年でどのような実践を行ったのか紹介します。

### 【第1学年】



題材名	ごみ箱をもっと増やして（新しい道徳1 東京書籍）
題材の概要	「日本にごみ箱をもっと増やしてほしい」という投書と、それに対して寄せられた3つの意見。景観の維持や環境保護、税金の使い道や日本人の美意識など、誰もが気持ちよく過ごせる社会にするために様々な視点からごみ問題について考える。
授業のポイント	生徒に投書とそれに対する3つの意見を読ませた上で、「日本にごみ箱を増やすべきか」について理由も含めて考える。付箋に自分の名前を書いて、黒板に書かれた「増やすべき」―「増やすべきでない」の数直線上に貼り、自由に意見交換する時間を設けることで他者の考えをもとに自分の考えを深めさせる。意見交換後、生徒の意見をもとに様々な視点からごみ問題について投げかけることで、多角的・多面的に社会の問題について考えさせる。
授業実践を通して	10月から清瀬市内の家庭ごみ回収の方法が変わったこともあり、身近な問題として関心をもっている様子が見られた。意見交換も活発に行われ、楽しそうに授業に取り組んでいた。多くのクラスメイトと意見交換できるように設定したため、はじめは自分の考えにはなかった視点を他者から取り入れ、ごみ問題についての見方を広げながら考えを深めている姿が見られた。

【第2学年】



題材名	『生きる』 谷川俊太郎
題材の概要	「生きているということ、いま生きているということ」に続き「それはのどがかわくということ」「ミニスカート」「泣けるということ」など様々なものが挙げられている詩である。詩を読んで感じたことや気に入った言葉をクラスで共有した後、それぞれが「生きている」と感じる瞬間を短冊に書き、クラスで1つオリジナルの詩を創作し、鑑賞した。
授業のポイント	3週かけて「いのち」をテーマに授業を行った。第1週はガンに冒される中最期まで懸命に生きた人の話、第2週は妹が生まれた中学生が新たな命の始まりを喜ぶ作文、そして今回の「生きる」という詩をきっかけにクラスで1つの詩を創作するという流れを作った。同じテーマで授業を重ねる中で、それぞれが「いのち」について深く考えていくことを目標にした。
授業実践を通して	詩を創作するという活動に生徒は意欲的に取り組む様子があった。普段の何気ないことも生きているからこそ経験できるものだと感じ、改めて「いのち」の大切さを感じたことを感想に述べる生徒が多くいた。各クラスの創作した詩は廊下に掲示したので、お互いに鑑賞し合う中で、自分自身と他者の「いのち」を大切に精一杯生きていく気持ちを育てて欲しい。

【第3学年】



題材名	よみがえれ、日本海！（新しい道徳3 東京書籍）
題材の概要	1997年に日本海沖で起きた重油流出事故によって日本海が汚染された際のドキュメンタリー資料を使用した。一漁師の思いや多くのボランティアの人々の日本海をよみがえらせる行動を通して、自然を愛し感謝する心や自然環境を守りぬこうとする態度を育てることを目標とした。
授業のポイント	本年7月にモーリシャス沖で起きた重油流失事故に思いをはせさせながら、かつて日本で行われた自然保護のエピソードを読み解き「自然を守る」というテーマについて考えさせた。自分事として考えられるよう「自分が関わっていけそうな『自然を守る』ための活動には、どのようなものがあるだろう」という問いかけを行った。それについて「清瀬レベル」「東京レベル」「日本レベル」「世界レベル」の4つに分けて考えさせ、グループでの話し合いから学級全体での意見共有活動を行った。
授業実践を通して	「ゴミを減らす」「リサイクルをする」といった常識的な視点に限らず、「自然を愛する意識をする」「節約をする（消費活動が抑えられ結果的に自然を守ることに繋がる）」といったグローバルな視点も話題になった。またグループ活動を行うことで自分にはない視点に気がつき、考え方を広げている姿が見受けられた。自然を守ると言うこと自体を議論する姿も見受けられ、自然愛護について考えを深める機会となったと思われる。

【1組】



【1年】

題材名	あなたはひかり（新しい道徳1 東京書籍）
題材の概要	「そのままのあなたが好きよ」「人はみっともないから可愛いと思う」「恥をかくからあつたかいと思う」と完璧でなくてもいい、と語りかけるような詩である。「あなた」を「地球の一粒のひかり」と表現しており、この言葉から自分と他者のいのちについて考える。
授業のポイント	詩を通して「地球の一粒のひかり」を考え、自分も他者も、かけがえのない存在であることを考えさせる。
授業実践を通して	自分や他者の長所を挙げさせる中で、できることだけでなく、できないことに挑戦している姿を挙げることがあった。自分が地球の一粒のひかりである理由を書く活動では、不器用ながらも取り組んでいること、未完成だからこそ頑張るということを話す生徒がいた。自分や周りの人の存在によって地球が輝いていることを理解し、自分も他者も大切にすることが大切であることを話し、気持ちをもち続けてほしい。

【2年】

題材名	ミライのしごと〜「ゲーム業界の仕事」 （NHK for school）
題材の概要	働く大人にズバツと突っ込み、本音を聞き出す「ミライのしごと〜」。ゲーム業界でそれぞれ異なる仕事をする3人の方のお話を聞いていく。①ゲームの生みの親「ゲームディレクター」、②ゲーム運営のアドバイザー「データアナリスト」、③ゲームのイベントを開催「イベントプランナー」。それぞれの仕事のやりがいと難しさ、また知識や資格はどんなものが必要か。3人の先輩が語るゲーム業界の仕事。
授業のポイント	生徒が興味・関心のあるゲームの世界を、普段の日常生活にある職業の一例として取り上げ、映像の内容を参考に仕事の種類やつながり、「働くこと」の意義について考える。
授業実践を通して	本授業で取り上げたゲーム業界の仕事は、生徒の興味を引きつけ、どのような仕事で、どんなやりがいがあるかなどを意欲的に知ろうとする姿が見て取れた。また、本時で職業の一例を知るとともに、「なぜ働くのか？」ということの現時点での自らの考えをもち、次回以降、勤労の価値について考えを深めていく導入とすることができた。少しでも勤労観について、多様な考えを広げてほしい。

## 【3年】

題材名	しあわせ （新しい道徳3 東京書籍）
題材の概要	タマゴマンは豆腐の料理が苦手だった。しかし今日の給食がマーボ豆腐。対してアナゴマンはマーボ豆腐が大好き。自分の嫌いな物を一番好きっていう人がいる……。タマゴマンは今までそんなことは考えたことが無かった。そしてそれは信じられないような驚きでもあった。それぞれ好きな物、嫌いな物が異なる中でみんなが幸せになるにはどうしたらいいのだろうか。先生は最後に「みんなの考え方の違いを知ることが全体の幸せを考えるスタートなのです。」と言った。タマゴマンはそれでも考え方の違いに悩んでいる。
授業のポイント	一つの物事であっても人によって見方や感じ方が違ってくる。自分と違う捉え方を友達がすることを理解する中で、よりよい関係を作る方法をグループ、クラス単位で考えてゆく。
授業実践を通して	教科書の物語を読み、他者と自分の考え方、感じ方には違いがあることを整理できた。また、関連した発問を行うことで、クラスメイトでさえも考え方感じ方には違いがあることを実感することができた。さらに、考え方が違う人と共に生活（共同・共生）するために必要なこととして、「相手の考えを否定しない」や「自分の考えや思いを相手に言葉で伝える」などの意見が出た。授業において深く感ることができたので、今後は実生活の中に反映させるため、より具体的な場面などをもとに授業を行いたい。